

81. スギ精英樹さし木発根不良クローンのさし穂に対するホルモン処理と培養液の効果

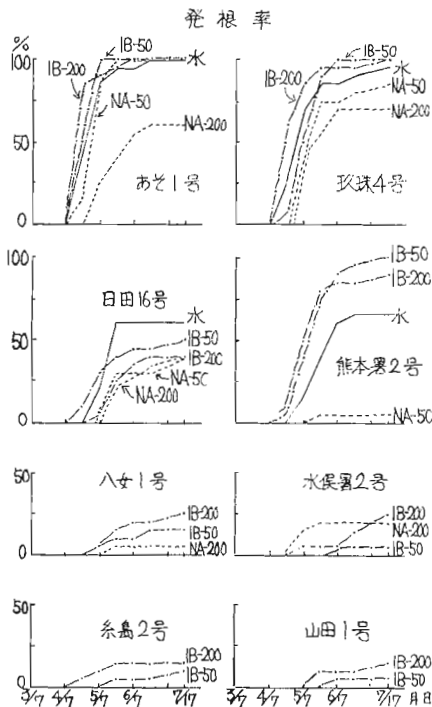
林業試験場九州支場 大 山 浪 雄
 九州林木育種場 岸 中 久 子
 善 一

スギ精英樹さし木発根不良クローンの生理的原因の一つに、発根調整物質の不良が考えられる。本報では、発根促進物質として最も重要視できる生長ホルモンの補給処理の効果を試験した。とくにホルモン剤としては効力が安定しているインドール酪酸 (IBA) を選び、従来、多く使用されてきたアルファ・ナフタリン酪酸 (NAA) と比較した。また、さし床の肥料養分は発根生理に無関係ではあり得ないので、水耕液を使って、培養液の効果も試験した。試験は、いずれも発根状態の観察が容易な水耕法によった。

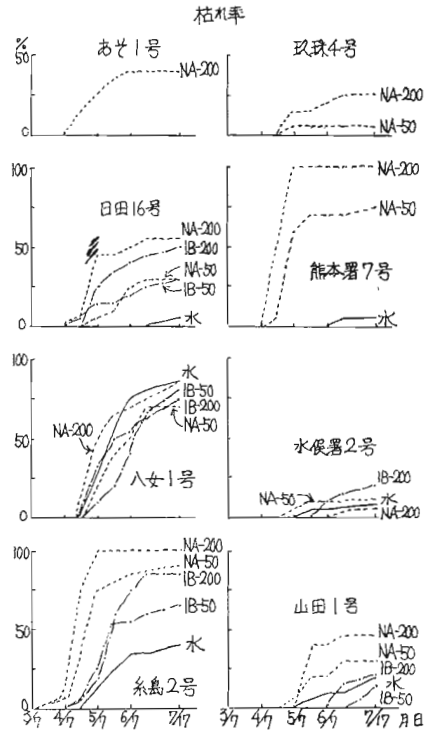
1. ホルモン処理の効果

1968年3月4日、前報で使った発根率90%以上および60~50%グループから各2クローン、20%以下グループから4クローンを用い、採穂台木10本から、長さ

第1図 ホルモン処理の効果



第2図 ホルモン処理の害作用



35cmのさし穂を各区20本ずつ採集し、インドール酪酸およびアルファ・ナフタリン酪酸の50ppm、200ppm液で、さし穂の基部4~5cmを24時間ホルモン処理し、ガラス室の水槽(水道流水)にスチロール板を浮かし、これに穴をあけて、さしつけた。さしつけ後7月17日まで、発根率、根数、枯れ率の推移を調べた。

そのホルモン処理の効果は第1図および第2図の通りで、インドール酪酸は、供試8クローン中7クローンの発根率、根数を高める効果が認められた。しかし、他のアルファ・ナフタリン酪酸は薬害による枯れ率が高く、発根促進効果は1クローンでしか認められなかった。

2. 培養液の効果

前報で使った発根率90%以上および20%以下グルー

